

事務事業評価表

1. 基本事項

作成日 令和08年06月09日(火)

事務事業		救急活動事務				担当課	深谷消防課	担当係	深谷消防署	管理番号	54911
総合計画	大項目	4	安心とやすらぎを感じられるまち				事業区分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務			
	中項目	1	備えができ安全・安心なまちづくり				根拠法令 個別計画等	・消防法・消防組織法・救急救命士法 ・深谷市救急業務に関する規則 ・深谷市救急業務取扱細則			
	小項目	2	消防・救急体制の充実								
	主要プロジェクト										
事業概要		管内で発生した各種災害等により負傷した傷病者の状態を的確に判断し、必要な処置を施して適切な医療機関に搬送する。救急資器材の整備及び救急隊員の訓練を実施するとともに、住民に対する応急手当の普及啓発に努め、救命率向上を図る。									
目的 ※何のために		傷病者の救命率及び社会復帰率の向上。									
対象 ※誰・何を対象に		住民の生命、身体及び財産。									
手段 ※どのように		各種災害現場までの現場到着時間と現場滞在時間（病院連絡時間）の短縮を図る。									
成果 ※何を求めるか		早期に医療機関へ搬送することで、傷病者の救命率と社会復帰率の向上を図る。									
執行体制		☒ 職員 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 指定管理 ☐ 市民ボランティア ☐ NPO等 ☐ その他（ ）									
事務事業を構成する 予算事業		区分	款	項	目	細事業名		前年度決算額（円）			
本事業の 主な業務		・救急等災害対応業務					・救命講習の実施				
		・救急資器材の維持管理業務					・				
		・救急訓練の立案、調整、実施に関する業務					・				
		・応急手当普及啓発業務					・				
		・救急活動事例研究					・				
		・救急活動記録票、統計及び即報の作成事務					・				

2. 事業費（投入コスト）

※令和7年度は決算見込み額です。

単位：円

区分		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
年度別計画							
事業費	予算（現額）	0	0	0	0	0	
	決算額	0	0	0	0	0	
	財源内訳	国支出金	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	
		他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	0	0	0	0	
人件費	従事職員数（人）	0.10	0.25	0.20	0.30	0.30	
	人件費相当試算※	786,956	2,002,542	1,644,449	2,543,129	2,642,547	
総事業費試算		786,956	2,002,542	1,644,449	2,543,129	2,642,547	

※ 人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

3. 評価指標

区分	指標名		単位	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度
	目標値	実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								
活動指標 1	救急出場件数（暦年）	目標値	件						
		実績値		5,909.00	6,148.00	9,624.00	9,842.00		
	目標値の算定根拠/実績値の出所		救急出場件数であり目標値の設定に値しない。/出場件数						
	実績値の算出式								
活動指標 2	訓練・研修回数	目標値	回	32.00	32.00	16.00	16.00		
		実績値		32.00	32.00	16.00	16.00		
	目標値の算定根拠/実績値の出所		年間訓練計画に基づく目標値。（実施回数を計上。1回が数か月に渡るもの有。） / 実施回数						
	実績値の算出式								
活動指標 3	資器材点検実施率	目標値	%	100.00	100.00	100.00	100.00		
		実績値		100.00	100.00	100.00	100.00		
	目標値の算定根拠/実績値の出所		100%の資器材点検を目標とする。 / 実施日/365日×100						
	実績値の算出式								
成果指標 1	資器材常時使用可能率	目標値	%	100.00	100.00	100.00	100.00		
		実績値		100.00	100.00	100.00	100.00		
	目標値の算定根拠/実績値の出所		車載されている全資器材常時使用可能率。 / 使用可能数/全資器材×100						
	実績値の算出式								
成果指標 2	現場到着時間	目標値	分	7.00	7.00	7.00	9.80	9.80	9.80
		実績値		8.98	9.38	9.45	9.50		
	目標値の算定根拠/実績値の出所		（参考）埼玉県平均現場到着所要時間9.8分（令和6年数値） / 覚知から現場到着までの時間（過						
	実績値の算出式								
成果指標 3	病院収容所要時間	目標値	分	43.60	43.60	43.60	49.80	49.80	49.80
		実績値		48.49	46.71	47.86	47.34		
	目標値の算定根拠/実績値の出所		（参考）埼玉県平均収容所要時間49.8分（令和6年数値） / 覚知から病院収容までの時間（過						
	実績値の算出式								

4. 観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。
 目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。
 事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に合う成果がでているかを評価します。
 （評価基準）（A:達成している B:おおむね達成している C:達成していない）

（1）事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	A	令和7年の救急出場件数は9,842件であった。前年と比較すると218件増加した。 年間訓練計画に定められた訓練・研修を計画通り実施し、職員の知識・技術を向上させることができた。 資器材点検の始業前点検、毎週点検を滞りなく行い、目標を達成できた。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	A	救急資器材の維持・管理を適切に行い、資器材常時使用可能率目標値100%を達成した。目標値については平成28年数値の見直しを図り、令和6年埼玉県平均の数値とした。 令和7年の現場到着所要時間は9.50（9分30秒）で、前年と比較すると0.05分（0分03秒）短縮したものの、埼玉県平均は上回る水準となった。 病院収容所要時間は令和7年47.34分（47分20秒）で前年と比較すると0.52分（31秒）短縮し成果をあげることができた。
			評価者 救急係長 飯塚修司・吉田幸司

（2）事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。
 （評価基準）（A:効率的である B:高める余地あり C:効率的でない）

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	A	派遣型救急ワークステーションや署内訓練で個々のレベルアップとチームの連携強化を行った。また、プレアライバルコールで事前に傷病者の情報を把握することで活動の効率化を図り、病院収容所要時間の前年から0.52分（31秒）短縮することができた。さらに、救急消耗品の受領や在庫管理のデータ化により、受領体制が柔軟になり業務の効率化に繋がった。
			評価者 救急係長 飯塚修司・吉田幸司